

○西行法師

10月12日平泉に罷着きたるけるに、雪降り、嵐激しく^森の外に荒れたりけり。いつしか
衣河見まほしくて罷りむかひて見けり。河の岸に着きて衣河の城しまはしたる事柄。様^{變り}
て物を見る心地しけり。汀^{たぎ}凍りて取り分き^凍えければ

「取り分きて心も凍みて^凍えぞ渡る衣河見に来たる今日しも」

～「山家集」より

西行法師が平泉に秀衡を訪れ東物見台より東稻山の景觀について

「ききもせず^{あわしめ}東稻山のさくら花

吉野の外にかかるべしとは」

雨ニモマケズ

宮沢賢治

1896～1933

雨ニモマケズ

風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケズ

丈夫ナカラダヲモチ

慾ハナク

決シテ驥ラズ

イツモンヅカニワラツテキル

一日ニ玄米四合ト

味噌ト少シノ野菜ヲタベ

アラユルコトヲ

ジブンヲカンジョウニ入レズニ

ヨクミキキシワカリ

ソシテワスレズ

野原ノ松ノ林ノ蔭ノ

小サナ萱ブキノ小屋ニキテ

東ニ病氣ノコトモアレバ

行ツテ看病シテヤリ

西ニツカレタ母アレバ

行ツテソノ稲ノ束ヲ負ヒ

南ニ死ニソウナ人アレバ

行ツテコハガラナクテモイイトイヒ
北ニケンクワヤンショウガアレバ
ツマラナイカラヤメロトイヒ
ビデリノトキハナミダヲナガシ
サムサノナツハオロオロアルキ
ミンナニデクノボウトヨバレ
ホメラレモセズ
クニモサレズ
サウイウモノニ
ワタシハ
ナリタイ

石川啄木

やはらかに 柳あおめる

北上の岸辺目に見ゆ

泣けとごとくに

仙 台 ・ 松 島

仙台・松島付近の地理・地学

○仙台は東北の中心都市

戦災後、復興モデル都市として都市計画にしたがって再建されたため、道路や町の区画がきちんと整備されている。

市の中を広瀬川が曲流しており、対岸の青葉城趾から眺めると、河岸の露頭で第三紀の地層で整合関係に重っている様子が見られる。また、この地層中に埋没した木材（メタセコイア等）が含脂性化石となり、これを掘り出し仙台名産の埋木細工として売り出している。

○塩釜は三陸沖漁場をひかえた東北第一の漁港で魚市場や水産加工、カンヅメ等の中小工場がたくさんある。また市内一森山には政宗の再建による塩釜神社がある。

○松島は沈降海岸で谷が切れ峰が海上に突き出て半島となりあるいは、海中に島となって浮かぶ多島海となっている。これらは第三紀層の凝灰岩や泥岩から成り島の高さはほぼ一定で海波の浸食作用や風化作用の差別浸食を受け奇岩、怪石を生じている。これらの風情が日本三景の一つに数えられてきた。

また松島湾の形態、水深、潮流、水温、塩分など好条件に恵まれているためにカキの養殖がさかんで、アメリカ向け輸出種カキの95%を占めている。その他のりやウナギの養殖もおこなわれているが汚水による死滅や腐敗の問題等も生じている。

歴史・芸術関係

○青葉城趾

青葉城には本丸・二の丸・三の丸があり、本丸は青葉山上の天守台、二の丸は大橋を渡ったつき当たりの丘の上、三の丸は現在の仙台市立博物館のあるところである。青葉城の建物は本丸の大広間をはじめ、明治初年にほとんど取りこわされた。ただ大橋のつき当たりの坂の上に、^{すみやぐら} 壮大な大手門と美しい隅櫓だけが残っていたが、これも戦災で焼失した。現在旧大手門わきの石がきと白土べい^{すみやぐら}が青葉城のおもかげをしのぶ唯一のなごりである。

旧天守台跡にのぼり崖ぎわの見晴台に立つと眼下に広瀬川が曲流し、その向こうに横たわる仙台市を一望のうちにさめることができる。宮城野をへだて、とおい太平洋も一体の帯のよう

六の内

